

目と目が合っていると思う時 ～視線一致を知覚する心理的要因～

どんな研究

人は相手の視線が自分の目に向いていなくても視線が一致していると思うことがあります。例えば、視線が鼻に向けられていても目が合っていると思います。この展示では、視線一致知覚が**視線の物理的な方向だけではなく、心理的要因に影響を受けて**変化することを紹介します。

どこが凄い

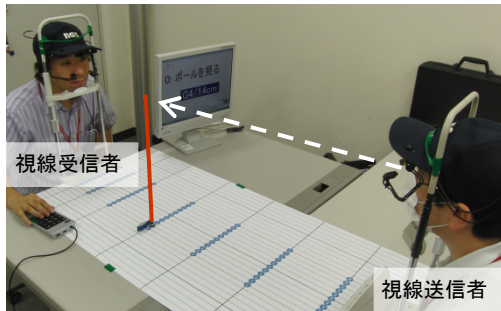
個人の**社交性不安**や、**相手の性別**などによって視線一致知覚の有無が影響を受けることを実験で計測し、世界で初めて発見しました。コミュニケーションの基本的要素である視線認知について個人差だけでなく相手との関係など環境の影響も受けることがわかりました。

目指す未来

ビデオコミュニケーションでは厳密な視線一致が困難です。本研究の知見を応用することで、利用者に**視線一致を意識させた自然な対話**を行わせることが期待できます。また、人が視線を重要視する心のメカニズムについて理解を深め、**視線恐怖などの問題**に迫ります。

目的 視線知覚に関与すると予想される社交性不安(個人特性)および、相手の性差(環境特性)を検討し、視線コミュニケーションの基礎的理解を深める。

実験方法



本当はポールを注視しているのに、「**自分の目が見られている**」と誤答した箇所を視線一致範囲とする。

- ・2人の間にポールを立てる
(両目の中心を原点、2cm刻み20×20箇所)
- ・送信者は**ポール**か**受信者の目**いずれかを注視
- ・受信者(左)は送信者の注視先を回答

社交性不安

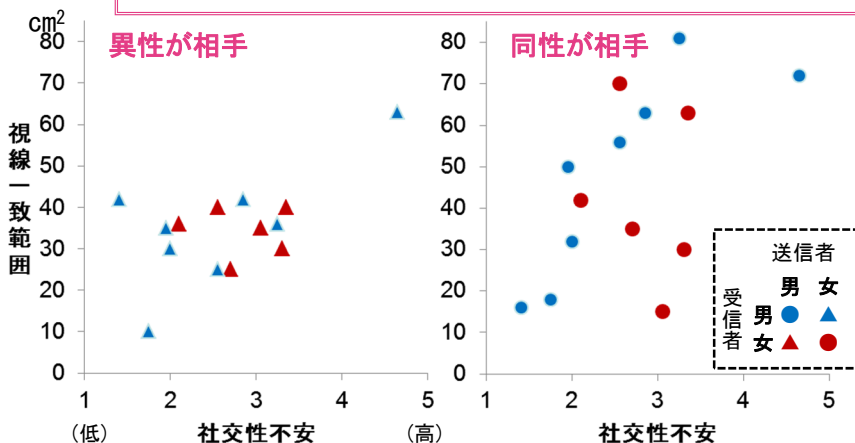
他者から注目されることに緊張し強い不安を感じること。質問紙で測定。個人特性を検討。

視線送信者

1人の視線受信者(実験参加者)は男女それぞれと対峙。環境特性による変化を検討。

結果

社交性不安(個人特性)と共に、相手の性別(環境特性)も視線一致範囲に影響をあたえることがわかった。

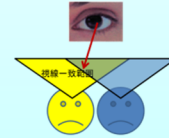


視線知覚の広狭はなぜあるか?

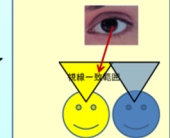
→ 有効な環境が異なる

- (1) 危険回避のため過剰知覚が有利
e.g. 捕食者からの逃走、社会関係の拒絶(社交性不安)
- (2) 視線シグナルの混信を避ける
e.g. 自分への興味への識別

範囲が広い場合識別が困難



範囲が狭い場合識別容易



関連文献

[1] 松田昌史, 本間元康, 石井亮, 熊野史朗, 大塚和弘, 大和淳司, "アイコンタクト知覚範囲の性差に関する探索的検討: 社交性不安およびアイコンタクト相手の性別の影響," 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 112, No.1, pp. 77-82, 2013.

連絡先

松田 昌史 (Masafumi Matsuda) メディア情報研究部 コミュニケーション環境研究グループ
E-mail: matsuda.masafumi{at}lab.ntt.co.jp ({at}の部分をも@に置き換えてください)